

研修レポート

豊橋市民病院 研修医 2年目

東三河北部に全く縁のなかった私にとって、新城市民病院での4週間の研修は非常に刺激的で濃密な時間を過ごすことができました。

まず、私が驚いたのは新城市民病院で行われている医療についてです。主に総合診療科で研修をさせていただきましたが、そこでは問診・身体所見を丁寧にとり、そこから高いエビデンスを参考に検査や治療を考えていく形が確立されていました。普段、何気なく診療をしてしまいがちな私にとって、改めて“患者さんをみる”ことの重要性を実感し、同時に常に知識をアップデートしていくことの大事さを学びました。

また、4週間のなかで訪問看護・介護や訪問リハビリ、助産所などにも研修で伺う機会がありました。そこでは、まさに患者さんの“暮らし”があり、医療・福祉により患者さんを社会的にもサポートしていく仕組みを実感することができました。同時に、医師1人でできることの限界にも気づかされ、多くのスタッフで協力し合い患者さんを支えていくことの重要性も感じました。

さらにいえば、今回は超高齢社会を迎えようとしているなかで、都市部から離れた地域での医療・福祉の実情を目の当たりにし、これからの時代に何が必要であるのかを考えさせられた研修であったとも感じます。例えば、緊急の治療を必要とする可能性がある方の救急搬送1つを例にしても、へき地では対応できる病院まで1時間以上かかってしまうことがあったり、あるいは透析治療や妊婦検診などを鑑みても、定期的に医療機関にかかる必要があるのに、それを診療できる医療機関が車で1時間以上離れたところにあるというケースを今回の研修で数多く経験しました。こうした環境のなかで必要となるのは、自治体・国レベルでの環境整備はもちろんですが、個人・病院レベルでの地域医療に対する意識でもあったと感じました。そうした意味で新城市民病院は、多職種で顔の見える関係を作り、最良の医療を提供するための研鑽を惜しまない先生方で溢れていて、大変魅力的だと感じました。こうした環境が、働く人を集め、高齢化の進む地域の医療を支えることにつながるのだと、研修を通して思うようになりました。

私は今回の研修で、医学だけでなく、地域医療の実情など本当に多くのことを学ぶことができました。今後、この4週間で学んだことを放置するのではなく、現場で実践することで、多くの患者さんに還元できるよう努力していきたいと思います。最後になりましたが、今回の研修でお世話になりました総合診療科の先生方をはじめ、関わっていただいたすべてのスタッフの方にこの場を借りて感謝申し上げます。本当にありがとうございました。